

「そのとき、」ヨハネがイエスにいった。「せんせい、おなまえをつかってあぐれいをおいだしているものをみましたが、わたしたちにしがわないので、やめさせようと思いました。」イエスはいわれた。「やめさせてはならない。わたしのなをつかってきせきをおこない、そのすぐあとで、わたしのわるぐちはいえまい。わたしたちにさからわないものは、わたしたちのみかたなのである。はっきりいっておく。キリストのでしたというりゆうで、あなたがたにいっぱいのみずをのませてくれるものは、かならずむくいをうける。わたしをしんじるこれらのちいさなもののひとりをつまずかせるものは、おおきないしうすをくびにかけられて、うみになげこまれてしまうほうがはるかによい。(45~48はぶきます)

イエスさまは、なんかいかにちようびにつづいて、ちいさなものにたいしてどのようにうけいたらようかをおしえてくださっています。またわたしたちのまわりにじぶんとおなじしんこうをもっていなくても、まじめにいきている、よいひとがたくさんいますので、みんなとちからをあわせるようにともイエスさまがおしえてくださっています。

イエスさまはきょうのふくいんのなかでいっぱいのみずをのませてくれるものは、かならずのおくいをうけるといっています。というのは、みずだけにかぎらず、あなたがこまっているひとのちからになってあげられたら、かならずあなたにたくさんのよいものがもどってくる（おくい）。ひとつのはなしをみんなにわかちあいたいです。

ひとりのせいねんは、いしゃになるためにだいがくにかよっていましたが、おかねがたくさんかかるので、あいているじかんにアルバイトをしていました。それはセールマン（いえからいえへかいものをすすめるしごと）でした。あるひのおひる、とてもあついで、このせいねんはつかれて、おなかがすいて、たおれそうになっていて、つぎにまわるいえでたべものをもらおうとおもっていました。どあをたたくと、ひとりのおんなのひとがでてきて、きんちょうしてしまって「みずをください」といってしまいました。そのおんなのひとは、がくせいをおなかがすかしているとわかって、おおきなコップにミルクをさしあげました。がくせいのみおわって「なにか、おれいをしたいのですが・・・」というとおんなのひとは、「いいですよ、なにかやくにたったらとおもいました」とこたえました。そのひ、がくせい はげんきをもどして、ほんとうにかんしゃしました。

なんねんかたって、がくせいとはとてもゆうめいなはかせになって、おおきなびよういんにつとめていました。ミルクをくださったおんなのひとはおもいびようきになって、すんでいたまちのいしゃたちは、いろいろとつくしましたが、なおすことができなくて、おおきなびよういんにうつすことにしました。そして、「ハワード・ケリー」はかせは、このおんなのひと

のカルテをみて、すぐ、あのときたすけてもらったひとだとわかりました。ながくかかりましたが、やっとあうくすりをみつけたので、おんなのひとはなおっていえにかえられるようになりました。びょういんにながくいたので、おかねがたくさんかかって、はらえないぐらいのきんがくになっていたので、しんぱいしていました、ケリーはかせが、このおんなのひとのせいきゅうしょをじぶんにまわしてもらったあと、おんなのひとのてにわたしました。あけてみると

「なんねんかまえにミルクでじゅうぶんにしはらっていただいています。ケリーはかせ」
ほんうにイエスさまがおっしゃったとおりでしたね。じぶんになんばいもよいものがかえってきますね。
ぼく、わたしはどんなしんせつできるのかな・・・

ぬりえ

